

# 2019年度 第2回 茨城県社会福祉士会 社会福祉士共通基盤研修実施要綱

## 1. 本研修の目的

社会福祉士は、それぞれの実践の場において、ソーシャルワーカーとしての役割と機能を果たすことが求められています。これらの役割と機能を果たしていくために、(公社)日本社会福祉士会では、生涯にわたり研鑽を積み重ねて行くべき共通の研修課題として、「権利擁護」「生活構造」「相談援助」「地域支援」「福祉経営」「実践研究」の6つの共通基盤を設定しています。

今回の研修は、日本社会事業大学 専門職大学院教授の宮島 清先生を講師に迎え、「子ども虐待の理解と家族支援」について、私たち社会福祉士がどのように対応し、どのような役割を果たして行くべきか、講義や演習を通じて学び合いたいと思います。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

## 2. 期日

2020年2月29日(土)

## 3. 場所

茨城県立健康プラザ(水戸市笠原町993-2) 3階 大会議室

## 4. 対象者

福祉現場で実践を行っているすべての社会福祉士

(非会員・他県士会の会員も受講可能です。定員80名)

## 5. 研修日程

別添、研修プログラムのとおり

## 6. 受講料

会員：4,000円 非会員：6,000円

## 7. 申し込み方法

・茨城県社会福祉士会のホームページにある専用フォームからお申込みください。

掲載ページ：研修情報→茨城県社会福祉士会主催→共通基盤研修

◆アドレス→ <http://www.csw-iba.org/mailform.php?code=8>

右のQRコードを読み取ると、申込フォームにアクセスできます。



ホームページからのお申込みが難しい場合は、メールで事務局までお問合せください。

・申込後、事務局から請求書を送付いたしますので、お近くの金融機関から指定口座に参加費用を振り込んでください。なお、振込手数料は各自ご負担ください。

・振込が確認でき次第、受講票をお送りします。当日は、忘れずに受講票をお持ちください。

裏面に続きます

## 8.申し込み期限

2020年2月21日（金） 定員になり次第締め切ります。

## 9.定員

80名

## 10.その他

受講申し込み後、欠席または申し込み事項の変更があった場合は、速やかに下記までご連絡ください。

## 11.お問い合わせおよび参加申し込み先

茨城県社会福祉士会事務局

〒310-0851 水戸市千波町 1918 番地 茨城県総合福祉会館 5階

電話：029-244-9030 FAX：029-244-9052 E-mail：[csw-iba@ibaraki.email.ne.jp](mailto:csw-iba@ibaraki.email.ne.jp)

# 2019年度 第2回 茨城県社会福祉士会 社会福祉士共通基盤研修プログラム

2月29日(土)

時 間	内 容
9:00~9:20	受 付
9:20~9:30	事 務 連 絡
9:30~10:20	<p>【行政説明】</p> <p>「茨城県における児童虐待の現状について」</p> <p>講師：茨城県保健福祉部 子ども政策局 青少年家庭課 木 滝 恵 理 氏</p>
<p>10:30~16:00</p> <p>〔 昼食休憩 1 時間 その他随時休憩を 含みます。 〕</p>	<p>《権利擁護》 講義及び演習</p> <p>「子ども虐待の理解と家族支援」</p> <p>講師：宮島 清 氏 (日本社会事業大学 専門職大学院 教授)</p> <p>日々、子ども虐待に関する報道が世間を賑わせています。 家族のあり方が多様化している中、私たち社会福祉士に求められる 役割も変化してきているのではないのでしょうか。</p> <p>この研修では、はじめに子ども虐待の現状を知り、その後、私たち社会 福祉士がそれぞれの立場でどのように対応し、どのような役割を果たして 行くべきか、講義や演習を通じて学び合いたいと思います。</p>

## 講師紹介

# 宮島 清

現職：日本社会事業大学専門職大学院教授

専門は、子ども家庭福祉とソーシャルワーク。特に児童虐待が発生した家族・援助を必要とする家族への支援、里親養育や児童福祉施設の援助とその仕組み関することに取り組む。

資格：社会福祉士

略歴：明治学院大学社会福祉学科卒業

昭和56年に埼玉県庁に入庁し、福祉職として、児童相談所、同一時保護所、知的障害児施設、県本庁児童福祉課等に勤務する。平成17年3月所沢児童相談所地域相談担当課長を最後に退職。平成17年4月から実務者教員として実践者の教育・訓練に携わる。

【著書・論文：主なもの】

- ①「社会的養護・里親制度の観点から」ぎょうせい「法律のひろば」10月号 特集「児童虐待防止対策・体制と連携の強化にむけて」2019年10月
- ①「要保護児童対策調整機関専門職研修テキスト」「児童福祉司研修テキスト」（共編著）明石書店2019年3月
- ②「家庭と同様の環境および家庭的な環境での養育の推進」小児内科51巻3号（3月号）特集：社会的養護を必要とする子どもたち—子どもの最善の利益のために 2019年3月東京医学社
- ③「子どものための里親委託・養子縁組の支援」（共編著）明石書店2017年12月
- ④「日本における要保護児童施策の現状：現場での取組を踏まえて」社会保障・人口問題研究所『社会保障研究第2巻第2・3号』2017年12月
- ⑤「児童相談所と市区町村子ども家庭福祉担当部所のこれから・悲しみを幸せに変えるという使命をどう果たすか。」後藤・安田記念東京都市研究所『都市問題』2017年9月
- ⑥「児童養護施設を退所した子どもへの支援」後藤・安田記念東京都市研究所『都市問題』VOL107 特集：子どもの貧困と向き合う2016年6月
- ⑦「家族支援と子育て支援 ファミリーソーシャルワークの方法と実践」やさしくわかる社会的養護シリーズ5明石書店2013年（共編著）
- ⑧「社会的養護テキストシリーズ」1～4巻 福村出版2011年（共編著）  
1巻「里親養育と里親支援ソーシャルワーク」 2巻「施設養護実践とその内容」  
3巻「子ども虐待の理解・対応・ケア」 4巻「子ども家庭支援とソーシャルワーク」
- ⑨「里親と子ども」第1号～10号 明石書店 2011年～2015年は編集委員会委員長、分担執筆

【役職・所属学会等：2019年4月1日現在】

厚生労働省社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会委員、同 国立児童自立支援施設処遇支援専門委員会委員、東京都児童福祉審議会臨時委員、埼玉県社会的養育推進計画検討委員会委員、東京都児童相談センター児童福祉専門員、川越市社会福祉審議会委員、品川区児童相談行政アドバイザー会議委員、NPO 法人子ども家族いきいきプロジェクト・あっとほーむ代表理事、全国児童養護施設協議会「季刊児童養護」編集委員、日本子ども虐待防止学会（代議員）、日本社会福祉学会会員（査読委員）、日本子ども家庭福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会会員

【社会的な活動：2018年度の実績 \*は、2019年度】

- <事例検討会のSVR>清瀬市子ども家庭支援センター、所沢市保健センター、所沢市教育センター、児童養護施設共生会希望の家、児童養護施設若草寮、長野県児童相談所、宮城県児童相談所、水戸市、北区、八王子市子ども家庭支援センターなど
- <研修講師・講演・助言者>子どもの虹情報研修センター、日本社会福祉士会、全国児童養護施設協議会、東京都、埼玉県、新潟県、群馬県、茨城県、長野県、宮城県、熊本県、富山県、三重県、横浜市、港区、松山市、金沢市、国立市、看護大学校、総合母子保健センター、大阪府市児童養護施設福祉協議会、家庭養護促進協会神戸事務所、アイポータルステーション、バディチームなど
- <その他>第198国会衆議院厚生労働委員会参考人\*、厚生労働省市町村・都道府県における子ども家庭相談支援体制の強化等に向けたワーキンググループ委員、平成30年度厚生労働省先駆的ケア策定・検証調査事業みずほ情報総研株式会社「フォスタリング機関職員の人材育成・研修カリキュラム等の策定に係る業務一式」有識者検討委員会座長、子どもの虹情報研修センター研究小委員会研究アドバイザー、NHK「日曜討論」「ニュースウォッチ9」・朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞・河北新報などの番組・記事でコメント